

2024年度 学長方針

九州工業大学長 三谷 康範

現代社会はVUCAとも表現されるように、少し先の未来でさえ予測することが困難な時代となっています。

そのような時代であっても、活躍し続けることができる人材を育成するためには、社会と柔軟に連携しそのニーズに即した教育研究活動を不断に進化させる必要があります。

九州工業大学では、国籍、年齢、ジェンダー、職業、専門領域などあらゆる垣根をこえた「多様性」をキャンパスに取り込むことで、多様な人と人、多様な技術と技術が出合い、新たな価値を生み出し、未来を考えることができる人材を輩出し続けることを目指しています。

第4期中期目標期間において、本学では、選択と集中により項目を絞って表現した中期目標・中期計画を具体的に遂行させるため、「学長方針」を新たに設定し、教職員一丸となってこの目標の実現に歩んでまいります。

九州工業大学長 三谷 康範



第4期中期目標・中期計画（教育）

（1）産業界に輩出する学生の需要と供給のマッチングを図る

- （1-1）社会ニーズに対して順応性に富んだ、学び続ける姿勢を持った学生を養成
- （1-2）教育のDXを推進し、社会に柔軟に対応した教育プログラムを充実
- （1-3）時代に即した質の高い教育を提供するため、教育組織の全学的な改組を行う

（2）社会人のキャリアアップを支援する

- （2-1）社会人の学び直しを促進するための社会人教育プログラムを構築・実施

（3）国際感覚を持った人材を養成する

- （3-1）戦略的重点協定校と合同で実施する国際教育研究連携プログラム
- （3-2）学生の国際交流の高度化、グローバル・コンピテンシーの向上

第4期中期目標・中期計画（研究・業務運営の改善）

（4）社会変革につながるイノベーションの創出を目指す

（4-1）イノベーション創出を加速する多様な組織対組織の連携制度を整備

（4-2）異分野融合や新たな組織的連携により社会変革につながる研究開発を推進

（5）学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する

（5-1）ガバナンス・コード適合状況の改善と組織の機能・権限・責任の明確化

（5-2）教育職員、事務職員、技術職員の業務分担見直しと横断的組織体制への移行

（6）施設・設備の活用と戦略的な整備・共用を進め、機能強化を図る

（6-1）スペースチャージ制度の活性化、施設等の効率的な性能維持改修

（6-2）多様な財源も活用しつつ、大学の機能が発揮できるキャンパスを整備

（6-3）大型研究設備を全学的に利用できる仕組みの構築と学外利用の促進

第4期中期目標・中期計画（財務・自己点検・その他）

（7）安定的な財務基盤確立と学内資源配分の最適化を進める

（7-1）多元的な収入の拡大と学内資源の効率的配分により戦略的投資を拡大

（8）自己点検・評価の結果を可視化、エビデンスベースの法人経営を実現 情報発信、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得

（8-1）エビデンスによる自己点検・評価と改善活動、学内外への情報発信

（9）デジタル・キャンパスを推進

（9-1）安全で安心な学びの場、デジタル技術による高度な教育研究活動の場を提供

（9-2）職場環境改善、事務システムの更新・整備

学長方針と中期目標との対応関係

関連する中期目標

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

- 1-1 DX基盤整備 (9)
- 1-2 DXの教育への応用 (1)(9)
- 1-3 DXの学生生活向上への活用 (1)(9)
- 1-4 事務業務の効率化 (5)(7)(9)
- 1-5 ハラスメントフリーキャンパスの実現 (9)

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

- 2-1 小中高・大学・社会の一貫した接続プラットフォームと教育プログラム（リメディアル・リカレント・リスキリング） (1)(2)
- 2-2 数理・AI・データサイエンス基礎教育 (1)
- 2-3 さらに進化するグローバル教養教育（GCE2.0） (1)

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

- 3-1 共創空間の利用・学内設備の充実 (6)
- 3-2 未来思考キャンパスの充実（B5G、カーボンオフセット） (6)
- 3-3 多様な学生が学ぶキャンパスの実現（女子学生、OB/OG、社会人など） (2)
- 3-4 ブレンディッド（リアル+遠隔）国際連携交流等 (3)
- 3-5 スタートアップ拠点化 (4)

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

- 4-1 設備共用による組織的連携強化 (6)
- 4-2 国際連携の研究・教育・産学連携への展開 (3)
- 4-3 スタートアップ拠点を利用した連携拡大 (4)
- 4-4 共同研究講座・社会連携講座他組織連携の充実 (4)
- 4-5 全体最適化を目指した教育組織・ガバナンス体制の構築 (1)(5)(8)

2024年度 学長方針

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-1. DX基盤整備

情報統括本部

1-2. DXの教育への活用

教育高度化本部

情報統括本部

1-3. DXの学生生活向上への活用

学生支援本部

情報統括本部

1-4. 事務業務の効率化

管理本部

1-5. ハラスメントフリーキャンパスの実現

コンプライアンス室

2024年度 学長方針

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-1. 小中高・大学・社会の一貫した接続
プラットフォームと教育プログラム
(リメディアル・リカレント・リスキリング)

教育接続・連携
PF推進本部

2-2. 数理・AI・データサイエンス基礎教育

教育高度化本部

2-3. さらに進化するグローバル教養教育
(GCE2.0)

教育連携本部

教育高度化本部

2024年度 学長方針

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-1. 共創空間の利用・学内設備の充実

イノベーション
本部

3-2. 未来思考キャンパスの充実
(B5G、カーボンオフセット)

イノベーション
本部

管理本部

3-3. 多様な学生が学ぶキャンパスの実現
(女子学生, OB/OG, 社会人など)

教育接続・連携
PF推進本部

D&I推進室

3-4. ブレンディッド (リアル+遠隔)
国際連携交流等

国際戦略室

教育連携本部

3-5. スタートアップ拠点化

社会実装本部

教育高度化本部

2024年度 学長方針

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-1. 設備共用による組織的連携強化

イノベーション
本部

4-2. 国際連携の研究・教育・産学
連携への展開

国際戦略室

教育連携本部

研究本部

4-3. スタートアップ拠点を利用した
連携拡大

イノベーション
本部

社会実装本部

4-4. 共同研究講座・社会連携講座他
組織連携の充実

イノベーション
本部

4-5. 全体最適化を目指した教育組織・
ガバナンス体制の構築

管理本部

2023年度 学長方針の進捗状況

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-1. DX基盤整備

情報統括本部

これまでの進捗状況

- ✓ Kyutech DXビジョンを公開した。
- ✓ DX推進室を中心に、第4期期間に渡るアクションプランを作成し、学内に開示した。
- ✓ 各部署に業務DXの問題を聞き取り、TFにより具体的活動を開始した。

現状の課題

- ✓ 業務DXを進めるための既存業務フローの見直しや、DX推進のための体制強化

今後の展開

- ✓ Teams電話などを基盤にした業務改善、TF活動の実質化、電子決裁の一部開始、IRに資するDXの検討

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-2. DXの教育への活用

教育高度化本部

情報統括本部

これまでの進捗状況

- ✓ 文部科学省数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について、「応用基礎レベルプラス」（先導的で特色を有するプログラム）に選定された。
- ✓ 関係部署が持つ入試・教務・就職データ、授業料免除や奨学金の情報等を取り込むデータレイクのシステムを構築した。
- ✓ 教育のための情報基盤のアクションプランをまとめた。

現状の課題

- ✓ 構築したデータレイクシステムで取り扱う、関係部署が持つデータの提供や取扱いに関する規定の整備が遅れている。

今後の展開

- ✓ 教育DX並びにIRの会議において関係規定を整備し、データの分析作業を進める。
- ✓ 構築したデータレイクシステムを活用して、教育改革のためのIR活動を進める。

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-3. DXの学生生活向上への活用

学生支援本部

情報統括本部

これまでの進捗状況

- ✓ カウンセラーを主体として、初年次前期の成績の分析結果による早期支援プログラム、研究室訪問支援プログラム、学生支援イベント等を継続実施した
- ✓ 新規取組みとしてデータ抽出した留年3回以上の学生に状況を確認、支援ニーズを聴取し、担当部署と共有した。
- ✓ DXに関わる聞き取り調査を行い、必要となるシステムの検討を開始した。

現状の課題

- ✓ 留年した学生への支援プログラム

今後の展開

- ✓ 引き続き支援プログラムを検証しつつ継続するとともに、留年学生の支援プログラムも検討のうえ開始する。
- ✓ 学生生活に係るIRに資するデータレイクの構築

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-4. 事務業務の効率化

管理本部

これまでの進捗状況

- ✓ “管理本部の業務工数を3割削減する”という目標を立て、各課毎にQC手法を用いて「現状の把握」「要因の解析」「対策の立案」「効果の予測」等を行い、3割削減に向けた計画を策定した。

現状の課題

- ✓ 1. 業務工数や手順の可視化
- ✓ 2. 業務効率化に対する職員の意識付け

今後の展開

- ✓ 1. 効率化のターゲットを絞り込み、効果を正しく予測するため、業務工数や手順の可視化を行うツールを標準化する
- ✓ 2. MBOを活用し、業務の効率化を、組織や個人の目標に落とし込む

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-5. ハラスメントフリーキャンパスの実現

コンプライアンス室

これまでの進捗状況

- ✓ 指導時におけるコミュニケーション研修実施や学生向けの研修教材の作成
- ✓ コミュニケーション促進のための情報発信等の啓発活動実施
- ✓ 組織内オンブズマン制度による構成員間の問題解決
- ✓ 全構成員を対象としたアンケート調査実施

現状の課題

- ✓ ハラスメントに関する相談～問題解決までの流れが明示されておらず、相談者が相談後のイメージを持ちにくい状況である。

今後の展開

- ✓ 相談～問題解決までの手続きを明確化したフロー図を作成し、学内へ公表する
- ✓ 研修教材の更なる充実とアンケート調査の分析及び分析結果を踏まえた活動の継続

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-1. 小中高・大学・社会の一貫した接続プラットフォーム と教育プログラム (リメディアル・リカレント・リスキリング)

教育接続・連携PF推進本部

これまでの進捗状況

- ✓ リカレント・リスキル事業推進のため、特別目的会社（Kyutech ARISE）を2024年4月に設立した。
- ✓ リカレント事業の提供科目数33、講座数3へ増加（令和6年3月時点）

現状の課題

- ✓ 教育コンテンツの拡充とプログラムの構築に課題がある。

今後の展開

- ✓ 今後はKyutech ARISEが顧客とのパイプ役を担い、本格的にリカレント事業を推進する。
- ✓ 企業とのリレーションを深め、ニーズ（AI・データサイエンス、IT、経営DX等）に合致した教育コンテンツの作成及び展開を進めるとともに、企業との連携によるプログラム構築を通して、提供科目数等の増加を図る。

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-2. 数理・AI・データサイエンス基礎教育

教育高度化本部

これまでの進捗状況

- ✓ 文部科学省数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について、「応用基礎レベルプラス」（先導的で特色を有するプログラム）に選定された。
- ✓ 学生がAI計算機材を利用して高度なAI技術を学習できる環境（AI工房）を整備した。
- ✓ 企業5社からデータサイエンス・AI技術の分野で活躍する卒業生等を講師として招き、学生対象の教育イベントを開催した。

現状の課題

- ✓ 数理・データサイエンス・AI教育（MDASH）プログラムで用いるため、企業などが持つデータを活用した、教材を充実させる必要がある。

今後の展開

- ✓ MDASHプログラムで用いるデータ教材の充実のため、企業や自治体との協力を進める。
- ✓ 他大学へのMDASHプログラム普及活動として、立命館アジア太平洋大学(APU)と連携。

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-3. さらに進化するグローバル教養教育(GCE2.0)

教育連携本部

教育高度化本部

これまでの進捗状況

- ✓ グローバルエンジニア養成コース（GEコース）にアントレプレナーシップ教育を取り込むこととし、令和6年度から学部・大学院に科目を追加することとした。

現状の課題

- ✓ 本学のグローバル教育を更に充実させるため、国内外の他大学等との更なる連携が必要

今後の展開

- ✓ 立命館アジア太平洋大学(APU)と連携し、本学のグローバル教育の充実を図る。

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-1. 共創空間の利用・学内設備の充実

イノベーション本部

これまでの進捗状況

- ✓ GYMLABO（戸畑）及びポルト棟（飯塚）において…
 - ✓ 学生利用、企業・団体による利用とも増加しており、延べ4万人に利用されている。
 - ✓ KyuTechコラボ会員企業（2023年度末100社・者）、シェアオフィス入居企業、自治体等、学内外の繋がりづくりのための交流会や、ワークショップを開催している。
 - ✓ 起業支援やアントレプレナーシップ教育、入居企業におけるインターンシップ受入、施設を活用した実証受入など、多様な機関との連携・共創が進んでいる。

現状の課題

- ✓ 共創の拡大や施設の安定的な運用のため、学内外からの更なる利用増が必要である。

今後の展開

- ✓ 施設広報の強化による外部利用増加、Kyutechコラボ会員の増加、広告収入増の企画を進め、共創拡大と収入増加を図る。

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-2. 未来思考キャンパスの充実(B5G、カーボンオフセット)

イノベーション本部

これまでの進捗状況

- ✓ 「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」及び概算要求の採択を受け、アカデミアの革新的アイデアを社会実装可能な革新的技術に昇華する仕組みとして、「未来思考実証センター」の整備に着手した。
- ✓ B5G環境による企業の実証活動の受入を開始したほか、共創環境等を活用した産学連携のカーボンニュートラルに向けた実証を進めている。

現状の課題

- ✓ 未来思考キャンパスの実現のため、社会実装機能やスタートアップ創出拠点としての機能・スタッフを充実させる必要がある。

今後の展開

- ✓ 社会実装機能やスタートアップ機能を充実するため、新組織である社会実装本部未来思考実証センターの設置、九工大未来テラスや未来デザインスタジオの整備を促進する。
- ✓ 各設備を有機的に連動させたイノベーションコモンズの実現

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-3. 多様な学生が学ぶキャンパスの実現

教育接続・連携PF推進本部

D&I推進室

これまでの進捗状況

- ✓ 女子生徒の理工系進学への取り組み（基本方針、アクション・プラン）を公表した。
- ✓ 在学生、卒業生及び九工大で学んだりカレント受講生と社会とをつなぐ場として Kyutech Community Serviceを構築した。

現状の課題

- ✓ 一般選抜合格者の女性学生数の減少
- ✓ Kyutech Community Serviceに関する運用方針の策定および卒業生に向けた登録の拡大

今後の展開

- ✓ 女性学生の獲得に向けて分析を行うとともに、アクション・プランを実行する。
- ✓ Kyutech Community Serviceのwebサイトを開設し、(社)明専会および(株)Kyutech ARISEと連携しながら、卒業生や企業等に向けた広報活動を実施する。
- ✓ 2024年4月に“D&I推進室”を設置し、これまで総務課で担ってきたダイバーシティ&インクルージョン（D&I）推進の機能を拡充する。

多様な学生⇒女子学生、OB/OG、社会人など

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-4. ブレンディッド（リアル+遠隔）国際連携交流等

国際戦略室

教育連携本部

これまでの進捗状況

- ✓ ・ブレンディッド型プログラムに対する海外渡航奨学金制度の渡航日数条件を緩和
- ✓ ・渡航プログラムを年間で俯瞰できる一覧を学生に提示し、合同留学説明会を実施
- ✓ ・渡航学生からの現地レポートをSNSで広報する「学生＝海外留学広報パーソン」の仕組みを設定

現状の課題

- ✓ 第4期中期目標期間中に国際連携教育研究連携プログラムに参加する学生数の累計を1,300人以上とする目標（現況目標400名弱）に対して実績331人。5類移行後に大幅に増加しているところであるが、令和9年度達成に向けて加速が必要

今後の展開

- ✓ APU連携によるブレンディッド型プログラムあるいは協働学習プログラムを検討する。
- ✓ ISGP、KMUTNBとのブレンディッド型プログラムの更なる充実を図る。

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-5. スタートアップ拠点化

イノベーション本部

教育高度化本部

これまでの進捗状況

- ✓ 九州・沖縄圏の19大学・機関からなるスタートアッププラットフォーム(PARKS)の主幹大学として、起業活動支援、アントレ教育、起業環境の整備等を推進し、新たに高校生等向けアントレプレナーシップ教育プログラムを実施した。

現状の課題

- ✓ 九工大自身のスタートアップ・社会実装拠点としての機能強化と推進スタッフが不十分である。
- ✓ 経営を担う起業家、経営人材が不足している。

今後の展開

- ✓ 新たな組織として社会実装本部未来思考実証センターを設置し、ミライテラス施設整備とPoCテクニシャン、EIR等の支援人材の配置を進める。
- ✓ PARKSで採択された「JST 大学発新産業創出基金事業スタートアップ・エコシステム共創プログラム」も活用し、GAPファンドによる大学発スタートアップ創出を加速する。

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-1. 設備共用による組織的連携強化

イノベーション本部

これまでの進捗状況

- ✓ マイクロ化総合技術センターのもとに新たに半導体中核人材リスクリング推進室を設置し、外部装置利用の増並びに講習数の拡大を図った結果、講習料収入が前年比1.6倍となり、運営費を自己収入で賄える規模に成長した。

現状の課題

- ✓ 設備共用に関する全学的なシステムの導入に遅れが生じている。

今後の展開

- ✓ 設備共用に関する全学的なシステムの導入について継続的に検討する。
- ✓ マイクロ化総合技術センターを学内の既存制度に縛られない「特区」（半導体イノベーション推進特区）に指定し、新たな考え方に基づく学内資源配分や人事評価を可能とすることで、持続可能なリカレント教育事業のモデルケースを構築する。

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-2. 国際連携の研究・教育・産学連携への展開

国際戦略室

教育連携本部

イノベーション本部

これまでの進捗状況

- ✓ 台北科技大学と連携した国際PBLプログラム実施。マレーシア企業4社、タイ企業1社を現地訪問し、海外インターンシップ再開の協議を行った。その他オンラインでも各社と交渉を行った結果、2024年度は計7社のインターンシップ公募を実施予定。

現状の課題

- ✓ 台北科技大学PBLプログラムを連携プログラムとするための先方との協議及びプログラムを本学主催で行うための検討

今後の展開

- ✓ 台北科技大学とのPBLプログラムの実施及び連携プログラムとするための協議
- ✓ 海外インターンシップの積極的な展開、広報
- ✓ 継続中のONDO Space（モンゴル）及びNB Space（タイ）事業を引き続き推進する

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-3. スタートアップ拠点を利用した連携拡大

イノベーション本部

これまでの進捗状況

- ✓ 九州・沖縄圏の19大学・機関と連携し、PARKSの主幹大学として起業活動支援、アントレ教育、起業環境の整備等を推進した。
- ✓ ベンチャーキャピタル（VC）による社会連携講座の設置や包括連携協定の締結、VC・北九州市との社会実装に向けた連携協定締結など、スタートアップ創出の連携の枠組みを構築した。

現状の課題

- ✓ スタートアップ・社会実装拠点として外部資源の活用や外部機関との連携が不十分である。

今後の展開

- ✓ PARKS事業のGAPファンド活用による大学発スタートアップ創出を加速するため、国内外の支援機関、全国プラットフォームとの連携等をさらに促進する。
- ✓ 九工大未来テラスや未来デザインスタジオを活用した外部機関との連携に取り組む。

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-4. 共同研究講座・社会連携講座他組織連携の充実

イノベーション本部

これまでの進捗状況

- ✓ 共同研究講座1件（SUMCO）、社会連携講座2件（Chaintope他、FVP）を設置した。
- ✓ 日鉄ステンレス等の企業、大学・高専、自治体との包括連携協定を8件締結した。
- ✓ 学内組織である安川連携推進室を核として、自律作業ロボットに係る研究開発に加えてシーズを活用した連携を増加させた。

現状の課題

- ✓ 地域の中核大学として、自治体や地元企業と連携した地域課題解決へのビジョン策定や取り組みの推進。

今後の展開

- ✓ 共同研究講座や社会連携講座などの大型の組織連携を促進する。
- ✓ 全国の高等専門学校との連携強化。
- ✓ 東京工業大学・室蘭工業大学との三工大連携を活用した取り組みの推進
- ✓ AIマッチングシステムの持続的な運営のためのコンソーシアム設置を検討する。

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-5. 全体最適化を目指した教育組織・ガバナンス体制の構築

管理本部

これまでの進捗状況

- ✓ ・統合人事制度に係るMBO（Management By Objectives and Self Control）の制度設計が完了し、2024年度から評価を開始する。
- ✓ ・決裁権限大綱については、内部監査の結果を踏まえて必要事項の修正を行った。

現状の課題

- ✓ 決裁権限大綱について、学長及び部局の権限の整理が完了していない。
- ✓ 政府等の補助金事業のような部署横断的な業務にかかる調整力が不足している。

今後の展開

- ✓ 決裁権限大綱について、タスクフォースの設置期間を延長し、引き続き学長及び部局の権限の整理を進める。
- ✓ 2024年4月に“経営戦略室を設置し、全学的な事業の立案や各組織の調整及び学長方針の具体化を進める。



国立大学法人

九州工業大学